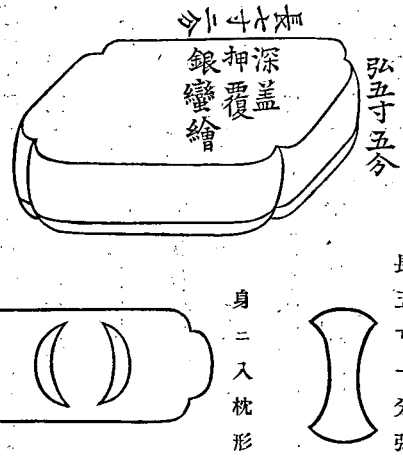
わすらるなうらしまのこが玉くしげあけてうらみんかひはなくとも

〔拾遺和歌集十八雜賀〕成房朝臣法師にならむとて、いひむろにまかりて、京の家にまくらばこをとり

につかはしたりければ、かきつけて侍ける、　則忠朝臣女

いきたるかしぬるかいかにおもほえず身よりほかなる玉くしげかな

〔類聚雜要抄四〕枕筥　深二寸五分



枕筥居筥
長九寸五分
弘七寸五分
高一寸

料木五三寸、榑一尺六寸三寸半、板九寸、木道單功八疋食蒔料金一兩一分　銀二兩二分　漆六合　書料卅疋　磨料百疋

口白鐵八兩加居筥定置料十五疋

關白相府仰云、以枕筥置帳内枕上、承平四年中宮御賀度如此云云、

〔國師日記〕一同五日九月、中略、〇元和三年久右衞門方へも文來、是も釜事也、文共は枕箱へ入置也

枕箱

〔用捨箱下〕枕箱

何の器物にもあれ、其形のみ專らおこなはれ、朝夕目に馴れば、古くよりありし物のやうに思は